

コロナ禍に思う

伊賀保護司会 会長 木村 清俊

保護司となって3年目だったと記憶している。薬物依存症から立ち直り、薬物依存症に苦しむ当事者や家族を支援している人の話を聞かせていただいた。「薬物乱用になる人は、どんな人たちだと思っていますか。」と問われたとき、反社会的行動をする人たちをイメージした。

彼が語ってくれたことは、私の思い込みとは、真逆の内容であった。大手の企業で真面目に働き業績をあげていたが、疲れを感じたとき、ふと覚せい剤を使用してしまった。初めは3か月に一度くらい頑張っている自分への褒美だったが、気づいたときは依存症になり施設に収容されていた。

昨年関東地方の大学野球の選手が大麻を使用していたと報じられた。部活動が中止となり心のすきまに入り込んできたのかも知れない。快楽を求めたのではなく、何かのしんどさや不安感を忘れるために薬物を使用してしまう人たちがいる。語ってくれた彼が依存症から回復できたのは、適切な治療と共に支援してくれる人たちがいたからである。

依存症は、薬物だけでなくギャンブル・アルコールなど暮らしの中に溢れている。何かを忘れるためや何かから逃れるための飲酒は依存症につながる。

自然災害の苦しみや社会不安から逃れたいと誰もが思う。コロナ禍の中でいつものことが出来ない苛立ちやもどかしさを感じてしまう。こうした時ほど、人と人の関係性が必要になる。誰かが支えてくれていると思える人は安心できる。誰かを支えている、誰かの役にたっていると思えば喜びを感じる。

小さな支援を続けていくことが、罪を犯してしまった人の立ち直りにつながると信じている。

「しあわせ」を辞書で調べると「幸せ」（幸運であること）と「仕合せ」（めぐりあわせ）がある。「仕合せ」を大切にしていきたい。



伊賀更生保護サポートセンターについて

保護司 米井 美紀子

昨年からの新型コロナウイルスの大規模な感染が今年も猛威を振るい私たちの生活に大きな変化をもたらし、感染防止のため、いろいろな制約がありました。

マスク着用、三密を避ける、手洗いの実行等様々の事が日常生活の中で行われてきました。特に人と人との間が密にならないようにしなければならない。今まで行ってきたことが、日常的にできなくなってきました。感染対策としてワクチンの開発がなされ、高齢者より順次予防接種が進められ、明るい見通しとなってきました。コロナウイルスが世界中に蔓延し、人の移動が制限されて、経済活動が打撃を受けています。一日も早い回復を祈るばかりです。

さて、私達保護司の役割として、罪を犯した人の改善更生の支援をしていくことが求められています。そこで、保護司の活動の拠点としてのサポートセンターについて、改めてご紹介させていただきます。

裏面へ続く

地域における更生保護活動に不可欠なものとして、法務省よりサポートセンター設立の要請がありました。伊賀地区の保護司で結成する伊賀保護司会もその趣旨に賛同し、平成30年7月伊賀更生保護サポートセンターを設立しました。

私達保護司の役割は、罪を犯した人の更生のお手伝いをし、再犯しないよう、社会復帰をできるよう、しっかりとその人に寄りそうことだと考えています。平素より、その役割を真摯に受け止め頑張っています。所詮一人では限界があります。日頃の保護司同士の情報交換や意見交換の場が求められています。サポートセンターは、その役割を果たす重要な場所になっています。

伊賀更生保護サポートセンターは、28名の企画調整保護司が、週3日（火・木・土）の午前9時から正午、午後1時から午後4時の時間帯に2名体制で駐在しています。

保護司は、対象者を援助していくことが大切です。犯罪を起こす以前の段階でその芽を摘み取ることも大切だと思います。私達保護司会は、犯罪予防活動に熱意をもって取り組んでいるボランティア団体です。安心して相談いただき一緒に考えることができればと思っています。サポートセンターを一般市民の皆様が気軽にご利用下さればと願っております。

伊賀更生保護サポートセンター

〒518-0829 伊賀市平野山之下380-5
伊賀総合福祉会館（旧消防庁舎）2F
TEL 0595-51-8957

令和3年度保護司会活動（前期）



保護司会総会 5.28



定例研修会 5.28



中学校と懇談会 8月～9月

第71回社会を明るくする運動

7月4日、伊賀市の大山田産業振興センターどんぐりホールで啓発式典（作文コンクール表彰式等）を開催しました。例年実施していたスーパー等での啓発活動は中止としました。



総理大臣メッセージ伝達



啓発式典会場



最優秀作文朗読



入賞者記念撮影

※社明運動に市民の皆様からの「愛の資金」を活用させていただいており、お礼申し上げます。

※伊賀保護司会では、犯罪や非行をした人を雇用し、立ち直りを助ける「協力雇用主」を募集しています。